

## 1. 作品の概要

現代のアイヌ文化の伝承活動に焦点をあて、その具体的な取組みを映像で記録し、現在進行形の文化伝承のすがたをひろく知ってもらうことを目的として制作したのが本作である。

撮影地としては、二風谷と白老を選んだ。2013年3月にリニューアルオープンした歴博の民俗展示でも、二風谷と白老のアイヌ文化の伝承活動を紹介しているが、本映像は、その展示とリンクするものである。アイヌ文化の「今」のすがたのうち、何を選び、どのように紹介できるのか、そのことを考えて展示の準備をしながら、制作を進めていった。

二風谷と白老を選んだ理由としては、第一に、このふたつの地域が、アイヌ文化の代表的な伝承地であることがあげられる。現代においても、たとえば、アイヌ文化の伝承を図るための国の施策のひとつである「アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業」が、白老では2006（平成18）年に、また二風谷では2008（平成20）年に、ほかの伝承地に先駆けて開始されるなど、年月をこえて、アイヌ文化の代表的な伝承地域であり続けている。第二に、このふたつの地域をとりあげることで、アイヌ文化の伝承活動の多様性を伝えることができる点である。二風谷のアイヌ文化は、沙流川とその周辺の山野と深く結びついているところに特徴があり、海辺に位置する白老のアイヌ文化は、山野・河川に加え、海と深く結びついているところに特徴がある。また、このふたつの地域のアイヌ文化の伝承には、河川沿いか沿岸部か、という点だけでなく、次の点にも異なる特徴が見出せる。

二風谷では、アイヌの精神文化・物質文化を、単なる記録としてではなく、生活の中で生きたものとして保存・伝承することを目的として、1983（昭和58）年、平取アイヌ文化保存会が設立された。保存会では、生活の場と密着した家族的な活動が展開してきた。保存会が二風谷地域のアイヌ文化の伝承において果たしてきた役割は重要なものであり、本映像では、保存会の活動を中心にして、家族的な雰囲気の中で、自ら楽しみながら活動している姿に注目して記録・編集した。

白老は、1892年に鉄道が開通するなどして、早くから観光化が進んだ地域である。観光客向けにアイヌ文化を紹介する施設が1965（昭和40）年にポロト湖畔につくられたが、アイヌ文化を見せる主体は誰であるべきなのか、という批判が強まり、1984（昭和59）年、地域のアイヌ民族自身が運営するアイヌ民族博物館が設立された。それまで観光一辺倒だった文化紹介が、学術的な調査・研究の成果に基づいたものとなり、アイヌ文化に親しむことのできる社会教育の場として、また、アイヌ文化の調査・研究と文化伝承の実践の場として機能してきた。このことから、白老のアイヌ文化の伝承については、アイヌ民族博物館の活動を中心に記録した。そのことは、必然的に、「博物館」という場で文化を見せる「主体」のありようを問う視点につながった。

## 2. 作品データ

「アイヌ文化の伝承 二風谷 2010」40分, 2010年度撮影・編集

ビデオ撮影：内田順子・貝澤耕一・貝澤太一・貝澤珠美・城石梨奈・土屋美恵子

写真撮影：勝田 徹

編集 集：内田順子

協力：平取アイヌ文化保存会

制作協力：貝澤耕一

製作・著作：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

### 【構成】

- ①二風谷の紹介（貝澤耕一さん公演，二風谷ダム裁判）
- ②保存会の概要（総会のようす，貝澤耕一さんインタビュー）
- ③保存会の活動
  - ・山菜採り
  - ・日本各地での公演
  - ・二風谷で展開するアイヌ文化伝承関係事業（環境調査，イオル事業）
  - ・チプサンケ（準備・本祭・先祖供養・川下り）
  - ・シシリムカ文化祭

「アイヌ文化の伝承 白老 2010」40分, 2010年度撮影・編集

ビデオ撮影 内田順子・城石梨奈

写真撮影 貝澤耕一・勝田 徹

編集 内田順子

協力 アイヌ民族博物館

制作協力 野本正博

製作・著作 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

### 【構成】

- ①白老の紹介（観光の幕開け～博物館ができるまで）
- ②アイヌ民族博物館の活動
  - ・夜間特別公演「ポロトコタンの夜」
  - ・河川をめぐるアイヌ文化の例「ペッカムイノミ」
  - ・海漁をめぐるアイヌ文化の例「シリカブの送り」
  - ・移動博物館（横浜での開催のようす）
  - ・国立博物館の設置計画と博物館展示の「主体」